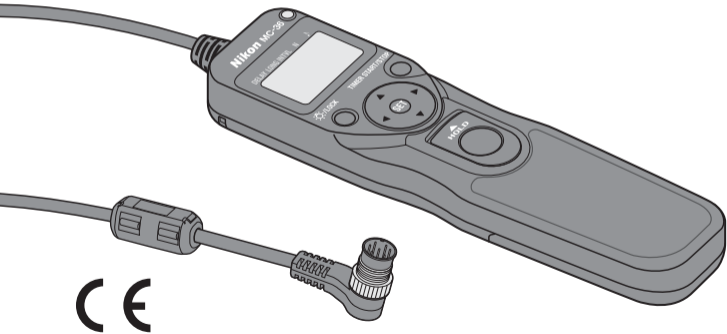


# Nikon



## Remote Cord

# MC-36

### Instruction Manual

Jp

En

De

Fr

Es

Sv

Ru

Nl

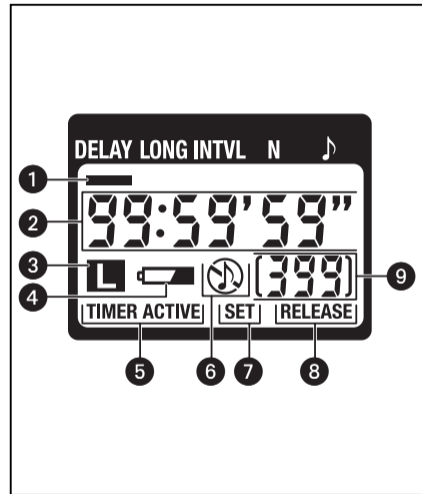
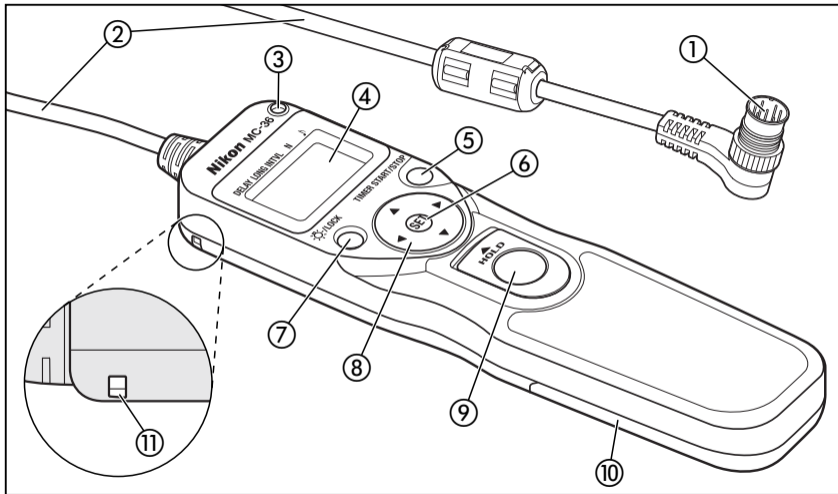
Pt

It

Ck

Ch

Kr



# リモートコード MC-36

## 使用説明書

安全上のご注意.....	2
はじめに .....	4
各部の名称 .....	5
電池の入れ方 .....	5
電池の交換方法.....	6
電源の ON/OFF について .....	6
照明/ロックボタンについて .....	7
カメラとの接続方法.....	7
MC-36 の使い方.....	8
タイマーを使って撮影する .....	8
手動リリースで撮影する .....	15
使用上のご注意.....	16
取り扱い上のご注意.....	16
主な仕様 .....	17




## 安全上のご注意 (1/3)

Jp




お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。

この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。






表示と意味は次のようになっています。

 <b>危険</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
 <b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。




お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。


### 警告 (本体について)




 分解禁止	分解したり、修理や改造をしないこと 感電や異常動作によるけがの原因となります。
 接触禁止  すぐに 修理依頼を	落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと 感電や破損部でのけがの原因となります。 電池を抜いて、販売店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
 水かけ禁止	水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと 発火や感電の原因となります。
 使用禁止	引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

## 安全上のご注意 (2/3)

⚠ 警告 (本体について)	
 電池を取る   すぐに 修理依頼を	<p>熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかにカメラおよびリモコンの電池を取り出すこと</p> <p>そのまま使用すると、火災ややけどの原因となります。</p> <p>電池を取り出す際は、やけどに充分ご注意ください。電池を抜いて、販売店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。</p>
 使用禁止	<p>指定の電池を使用すること</p> <p>指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。</p>



⚠ 注意 (本体について)	
 感電注意	<p>ぬれた手でさわらないこと</p> <p>感電の原因となることがあります。</p>
 放置禁止	<p>幼児の手の届かないところに置くこと</p> <p>けがの原因となることがあります。</p>
 禁止   電池を取る	<p>長期間使用しないときは電池を外すこと</p> <p>電池の液漏れにより、火災やけが、周囲を汚損する原因となることがあります。</p>
 放置禁止	<p>窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと</p> <p>ケースや内部の部品に悪影響を与え、火災の原因となることがあります。</p>

⚠ 危険 (アルカリ電池について)	
 危険	<p>電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること</p> <p>そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。</p>

⚠ 警告 (アルカリ電池について)	
 警告	<p>外装チューブをはがしたり、傷を付けないこと</p> <p>液もれ、発熱、破裂の原因となります。</p>
 禁止	<p>電池を火に入れたり、加熱しないこと</p> <p>液もれ、発熱、破裂の原因となります。</p>
 禁止	<p>新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないこと</p> <p>液もれ、発熱、破裂の原因となります。</p>

## 安全上のご注意 (3/3)

Jp

 <b>警告 (アルカリ電池について)</b>	
 分解禁止	電池をショート、分解しないこと 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 警告	電池に表示された警告、注意を守ること 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 警告	使用説明書に表示された電池を使用すること 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 保管注意	電池は幼児の手の届かない所に置くこと 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合はただちに医師にご相談ください。
 警告	電池の「+」と「-」の向きを間違えないようにすること 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

 <b>警告 (アルカリ電池について)</b>	
 警告	使い切った電池はすぐに取り出すこと 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 水かけ禁止	水につけたり、ぬらさないこと 液もれ、発熱の原因となります。
 禁止	充電しないこと 液もれ、発熱の原因となります。
 警告	電池を廃棄するときは、テープなどで 接点部を絶縁すること 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則にしたがって廃棄してください。
 警告	電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗い流すこと そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

## はじめに

このたびは、リモートコードMC-36（以下「MC-36」と記載します）をお買い上げくださりまして、ありがとうございます。

本製品は、天体写真の撮影などに便利なインターバルタイマー付きリモートコードです。接続可能なカメラについては、P.17をご覧ください。

### 表記について

- ・シャッター幕を開く操作を「リリース」、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるころまで押すことを「半押し」、半押しの状態から深く押し込むことを「全押し」と表記しています。
- ・カメラの各種機能の名称は、カメラによって異なります。詳しくはお使いのカメラの使用説明書をご覧ください。

## 各部の名称 (1/3)

本体と表示パネルのイラストは、表紙裏面に記載しています。  
(表示パネルのイラストは、説明のため、すべての表示を点灯させています)

### 本体

- ① 10ピンプラグ ..... P.7
- ② コード
- ③ レリーズランプ ..... P.13
- ④ 表示パネル ..... P.6、9~13、15
- ⑤ タイマー作動ボタン ..... P.13
- ⑥ タイマー設定ボタン ..... P.9~12
- ⑦ 照明/ロックボタン ..... P.7
- ⑧ 方向ボタン ..... P.10~11
- ⑨ シャッターボタン ..... P.15
- ⑩ 電池カバー ..... P.5、6
- ⑪ ストラップ穴 (市販の携帯電話用ストラップなどを取り付けることができます)

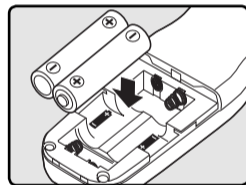
### 表示パネル

- ① 設定インジケータ ..... P.10~11
- ② 時間表示部 ..... P.10~13、15
- ③ 操作ロック中表示 ..... P.7
- ④ 電池残量警告 ..... P.5
- ⑤ タイマー作動中表示 ..... P.13
- ⑥ 電子音表示 ..... P.9、11
- ⑦ タイマー設定中表示 ..... P.9~11
- ⑧ レリーズ中表示 ..... P.13、15
- ⑨ 残り撮影回数 ..... P.9~13

以降の説明に用いる表示パネルのイラストは、説明に関係ある部分だけを強調し、直接関係がない部分は色を薄くしています。

## 電池の入れ方

本体裏面の電池カバー (⑩) をスライドさせて取り外し、1.5V LR03 アルカリ単 4形電池 2本 (別売) を、下図のように入れてください。



### ✓ 電池残量警告について

電池残量が少なくなると、表示パネルの (④) が点灯します。電池交換の準備をしてください。

## 各部の名称 (2/3)

Jp

### 電池の交換方法

電池を交換するときは、以下の手順をお守りください。

1. 表示パネルの「**TIMER ACTIVE**」(⑤)や「**RELEASE**」(⑧)が消灯していることを確認する(右記参照)
2. カメラの電源をOFFにして、MC-36を取り外す
3. 電池を取り外す
4. 表示パネルの表示が消えてから、新しい電池を入れる

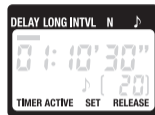
### 電源のON/OFFについて

MC-36には、電源スイッチがありません。電池残量がある間、表示パネルは点灯し続けます。

電池の消耗を抑えるため、使用後は、表示パネルの「**TIMER ACTIVE**」(⑤)、「**SET**」(⑦)、「**RELEASE**」(⑧)が消灯していることをご確認ください(右記参照)。

これらの表示が点滅した状態で放置すると、電池の消耗が速くなります。

### TIMER ACTIVE、SET、RELEASEの消灯方法



点滅部分	原因と消灯方法
<b>TIMER ACTIVE</b>	タイマー作動中 (P.13) → タイマー作動ボタン (⑤) を押す
<b>SET</b>	タイマー設定中 (P.9) → タイマー設定ボタン (⑥) を押す
<b>RELEASE</b> ( <b>TIMER ACTIVE</b> は非点滅)	手動リリース中 (P.15) → シャッターボタン (⑨) を放す (シャッターボタンが <b>HOLD</b> 位置の場合は <b>HOLD</b> を解除する)



## 各部の名称 (3/3)

### 照明／ロックボタンについて

照明／ロックボタン (⑦) を短く押すと、表示パネルの照明が約 6 秒間点灯します。点灯中に方向ボタン (⑧) を押し続けている間は点灯が続き、ボタンを放してから約 6 秒後に消灯します。

照明／ロックボタンを 3 秒以上押し続け、表示パネルに **L** (③) が点灯すると、シャッターボタン (⑨) と照明／ロックボタン以外のボタン操作がロックされます。ロックを解除するには、照明／ロックボタンを 2 秒以上押し続けてください。

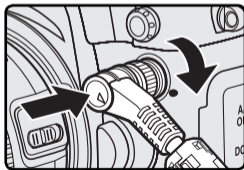


操作ロック中

## カメラとの接続方法

1. カメラの電源を OFF にする
2. MC-36 の表示パネルの「**TIMER ACTIVE**」(⑤) や「**RELEASE**」(⑧) が消灯していることを確認する (P.6 参照)
3. カメラの 10 ピンターミナルからキャップを外し、MC-36 の 10 ピンプラグ (①) を接続する

- 下図のように、プラグとターミナルの指標を合わせてプラグを差し込み、プラグ先端部のねじを締めてロックしてください。



### ✓ MC-36 の取り外し方

表示パネルの「**TIMER ACTIVE**」(⑤) や「**RELEASE**」(⑧) が消灯していることを確認してから (P.6 参照)、カメラの電源を OFF にして、MC-36 を取り外してください。使用後は、カメラの 10 ピンターミナルにキャップを取り付けてください。

## MC-36 の使い方

Jp

MC-36 には、2通りの使い方があります。

### 【タイマーを使って撮影する】(P.8)

- ディレイ時間（撮影開始までの時間）や露光時間、撮影間隔、撮影回数などを設定してから、タイマーを作動させて自動撮影する方法です。

カメラで設定したシャッタースピードで撮影することもできます (P.14)

### 【手動リリースで撮影する】(P.15)

- カメラのシャッターボタンの代わりに、MC-36のシャッターボタンを使って撮影する方法です。タイマー撮影中でも、手動リリースは可能です。

## タイマーを使って撮影する (1/7)

### 1. カメラの設定

- カメラと MC-36 を接続してから (P.7)、カメラの電源を ON にする
- カメラを以下のように設定する
  - 詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

カメラの機能	設定内容
露出モード	<b>M</b> (マニュアル)
シャッタースピード	<b>Bulb</b> (バルブ)
インターバルタイマー	解除
フォーカスモード	<b>M</b> (マニュアル) または <b>AF-C</b> (コンティニュアス AF サーボ) ※
連写モード	<b>S</b> (1コマ撮影)

※ AF-C の動作を「フォーカス優先」と「リリース優先」から選択できるカメラの場合は、「リリース優先」に設定してください。

# タイマーを使って撮影する (2/7)

## 2. タイマーの設定

### a. タイマー設定ボタン (⑥) を押す

- 設定画面に切り替わり、表示パネルの「SET」(⑦) が点滅します。



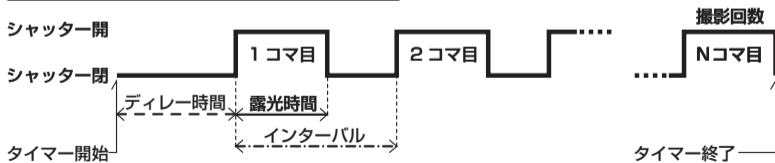
設定画面

### b. 以下の 5 項目を設定する

- 設定方法については、P.10 の「タイマーの設定方法」をご覧ください。

設定項目	設定できる範囲
DELAY (ディレイ時間)	0 秒～ 99 時間 59 分 59 秒 (1 秒単位)
LONG (露光時間)	
INTVL (インターバル)	1 秒～ 99 時間 59 分 59 秒 (1 秒単位)
N (撮影回数)	1 ～ 399 回、または無限回 (- -)
♪ (電子音)	オン (♪) またはオフ (🔇)

### ディレイ時間と露光時間、インターバルの関係



事前に MC-36 のタイマーを設定してから、カメラと MC-36 を接続することもできます。

# タイマーを使って撮影する (3/7)

Jp

## タイマーの設定方法

タイマーの設定には、方向ボタン (⑧) を使います。



左右：設定項目を選ぶ

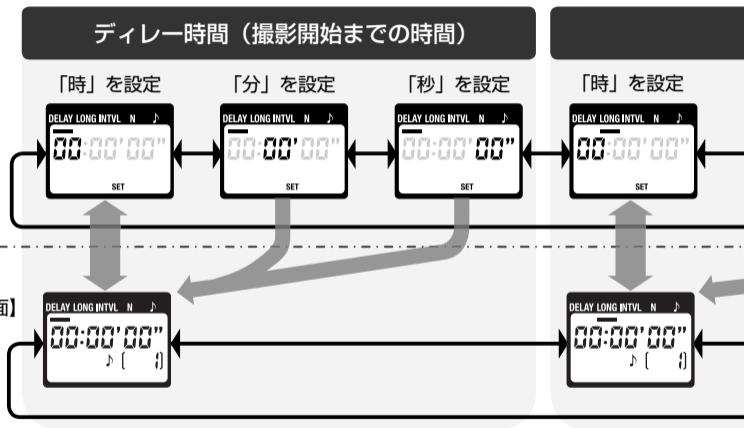
上下：数値を変更する (ボタンを押し続けると、早送りできます)

どの項目を変更しているかは、設定インジケータ (①) の位置で確認できます。

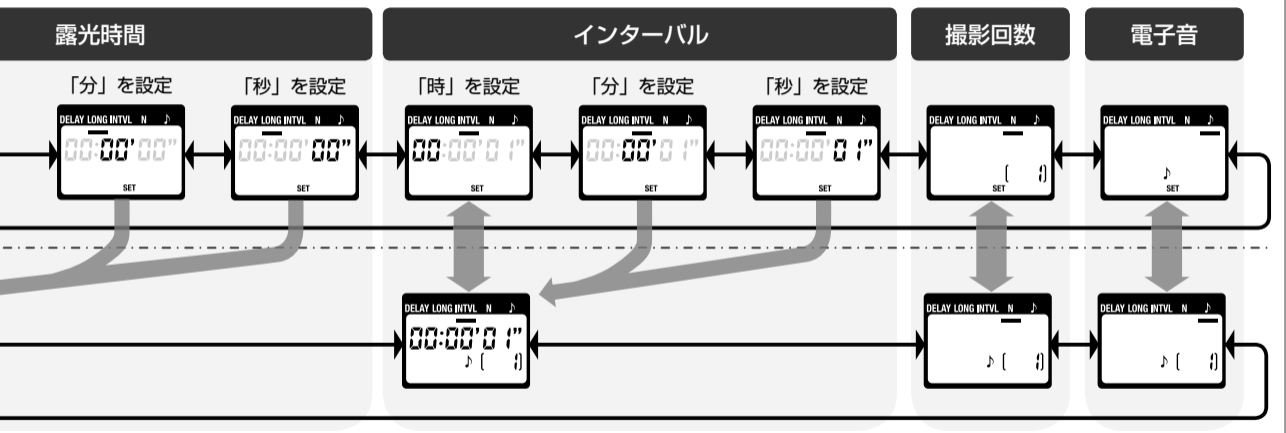
設定画面の表示中にタイマー設定ボタン (⑥) を押すと、設定完了画面 (P.12) に切り替わります。設定完了画面では、方向ボタンの左右で設定インジケータが移動し、インジケータが示している項目の設定内容が表示されます。もう一度タイマー設定ボタンを押すと、インジケータが示している項目の設定画面に移ります。

【設定画面】

【設定完了画面】



# タイマーを使って撮影する (4/7)



## タイマーを使って撮影する (5/7)

Jp

### ☑ タイマー設定時のご注意

- タイマーを正しく作動させるために、「インターバル」は必ず、「露光時間」より1秒以上長くしてください。
- AF（オートフォーカス）撮影を行う場合、ピント合わせに要する時間を確保するため、
  - ・「ディレイ時間」を2秒以上にする
  - ・「インターバル」を「露光時間」より2秒以上長くすることをおすすめします。
- ノイズ除去機能のあるデジタルカメラで「ノイズ除去（D2Xなどでは「長秒時ノイズ除去」）」をONにして撮影する場合は、MC-36の「インターバル」を「露光時間」より2倍以上長くしてください。
- 「インターバル」を0秒に設定することはできません。設定画面で「0秒」と設定しても、設定完了画面に切り換えたときに、自動的に「1秒」に変更されます。
- 「撮影回数」を無限回にする場合は、撮影回数の設定画面で回数が「1回」の状態では方向ボタン(ⓐ)の下を押すか、回数が「399回」の状態では方向ボタンの上を押してください。回数表示部に、「-」と表示されます。

c. すべての項目の設定が終わったら、タイマー設定ボタン(ⓐ)を押す

- 電子音が鳴って（電子音がONの場合）設定が有効になり、設定完了画面に切り替わります。



設定画面

設定完了画面

- 設定した内容は、設定を変更するか、電池残量が無くなる（または電池を抜く）まで保持されます。

# タイマーを使って撮影する (6/7)

## 3. 撮影を始める

タイマー作動ボタン (⑤) を押す

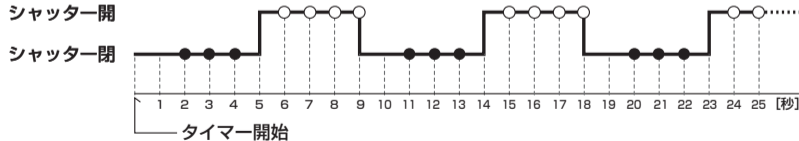
- タイマーが作動し、表示パネルの「**TIMER ACTIVE**」(⑤) が点滅します。
- レリーズ開始前は、表示パネルにレリーズ開始までの時間がカウントダウン表示されます。レリーズ開始3秒前になると、1秒間隔で電子音が鳴ります（電子音がONの場合）。
- レリーズ中は、表示パネルにレリーズ終了までの時間がカウントダウン表示されます。また、1秒間隔でレリーズランプ(③) と表示パネルの「**RELEASE**」(⑧) が点滅します。
- 1回のレリーズが終了するたびに、表示パネルの残り撮影回数が更新されます。

タイマー作動中の表示パネル



タイマー作動中の電子音とレリーズランプ

(「ディレイ時間 5 秒、露光時間 4 秒、インターバル 9 秒」に設定した場合。●は電子音が鳴ること、○はレリーズランプが点灯することを示しています)




# タイマーを使って撮影する (7/7)

Jp

## 4. 撮影を終える

- 設定した回数の撮影を終えると、タイマーが終了します。
- タイマー作動中に、途中で撮影をやめるには、タイマー作動ボタン (⑤) を押ししてください。

### ✓ タイマー撮影についてのご注意

長時間のタイマー撮影を行う場合は、MC-36 の電池残量が充分にあることをご確認ください。表示パネルの  (④) が点灯している場合は、電池を交換することをおすすめします。

### カメラのシャッタースピードで撮影する

カメラ側でシャッタースピードを設定して撮影することもできます。この場合は、カメラと MC-36 をそれぞれ、以下のように設定してください。

カメラ	露出モード	M (マニュアル) または S (シャッター優先オート)
	シャッタースピード	任意のシャッタースピード
	インターバルタイマー	解除
	フォーカスモード	M (マニュアル) または AF-C (コンティニユアス AF サーボ) *1
	連写モード	S (1 コマ撮影)
MC-36	露光時間	0 秒
	インターバル	カメラのシャッタースピードよりも長くする *2

\*1 AF-C の動作を「フォーカス優先」と「リリース優先」から選択できるカメラの場合は、「リリース優先」に設定してください。

\*2 AF 撮影の場合は、「インターバル」を、カメラのシャッタースピードよりも 2 秒以上長くすることをおすすめします。また、ノイズ除去機能のあるデジタルカメラで「ノイズ除去 (D2X などでは「長秒時ノイズ除去」)」を ON にして撮影する場合は、「インターバル」を、カメラのシャッタースピードより 2 倍以上長くしてください。



# 手動リリースで撮影する

MC-36のシャッターボタン(⑨)は、カメラのシャッターボタンと同様の半押し/全押し機能を備えており、カメラのシャッター操作を遠隔操作することができます。

## 1. カメラの設定

カメラとMC-36を接続してから(P.7)、カメラの電源をONにする

- 露出モード、シャッタースピード、フォーカスモード、連写モードについての制限はありません。

## 2. 撮影する

a. MC-36のシャッターボタン(⑨)を半押ししてから、全押しする

- リリース中は電子音が1秒間隔で鳴り、表示パネルの「RELEASE」(⑧)が点滅します。また、表示パネルの時間表示部(②)に、リリース開始からの経過時間が表示されます。
- シャッターボタンを全押ししたまま**HOLD**方向にスライドさせると、全押し状態を保持することができ、バルブ(bulb)撮影時などに便利です。逆方向にスライドさせると、解除されます。



b. シャッターボタンを放して、撮影を終える

MC-36の電池残量が無い状態でも、手動リリースは可能です。ただしこの場合、表示パネルには何も表示されず、電子音も鳴りません。

タイマー撮影中でも手動リリースを行うことができます。ただしタイマーは、手動リリースの有無に関係なく作動し続けます(表示パネルやリリースランプ、電子音も、タイマー撮影時の動作を続けます)。

なお、タイマーによるリリースと手動リリースが重なった場合は、

- いずれか一方がリリースを開始した時点で、リリースが始まります。
- 両方がリリースを終了するまで、リリースが継続します。

## 使用上のご注意

Jp

●タイマー撮影中にカメラの電池やフィルム（またはメモリーカード）の残量が無くなっても、MC-36のタイマーは作動し続けます。

●デジタルカメラでは、バッファメモリー※がいっぱいになる（連続撮影可能コマ数がゼロになると、画像がメモリーカードに書き込まれてバッファメモリーが空くまで、リリースできません。

※撮影した画像がメモリーカードに書き込まれるまでの間、データを一時的に保存するカメラ内蔵のメモリー

●AF撮影を行う場合は、シャッターボタンの半押しでAFが作動するように設定してください（一部のカメラでは、シャッターボタンの半押し時にAFが作動しないように設定できる場合があります）。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

●カメラの電池残量が充分ある状態でお使いください。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。長時間の撮影には、ACアダプターをお使いいただくことをおすすめします（別売アクセサリとして用意されている場合）。

●タイマーの時間精度は、腕時計などの一般的な時計ほど高くありません。

## 取り扱い上のご注意（1/2）

●強いショックを与えないでください  
落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●水にぬらさないでください

本製品は水にぬらさないようにご注意ください。製品内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

●急激な温度変化を与えないでください

極端に温度差のある場所に持ち込む（寒いところから急激に暖かいところに持ち込む、またはその逆）と、本製品の内外に水滴が生じ、故障の原因となります。バッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

●強い電波や磁気の発生する場所で使用しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、正常に機能しない場合があります。

●電子機器の特性について

ごくまれに、外部から強い静電気が電子回路に侵入し、表示パネルに異常な表示が点灯したまま、製品が作動しなくなることがあります。万一このような状態になった場合、カメラの電源をOFFにしてMC-36を取り外した上で、MC-36の電池をいったん取り出し、表示パネルの表示が消えてから入れ直してください。この際、電池が熱くなっていることがあるのでご注意ください。この操作を行っても不具合が続く場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

## 取り扱い上のご注意 (2/2)

### ●高温・低温下での液晶表示について

表示パネルの液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では応答速度が多少遅くなることがあります。いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

### ●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

## 主な仕様

対応カメラ*	ニコンデジタルカメラ D3 / D2 シリーズ / D1 シリーズ / D700 / D300 / D200 / D100 (マルチファンクションバッテリーパック MB-D100 を介して接続) ニコン F6 / F5 / F100 / F90X / F90
ディレー時間	0 秒～ 99 時間 59 分 59 秒まで 1 秒間隔で設定可能
露光時間	
インターバル	1 秒～ 99 時間 59 分 59 秒まで 1 秒間隔で設定可能
撮影回数	1 ～ 399 回、または無限回
電源	1.5V LR03 アルカリ単 4 形電池 × 2
電池寿命	約 2 ヶ月 (ディレー時間 5 分、露光時間 4 分 56 秒、インターバル 5 分で連続撮影した場合) ; 表示パネルの照明を点灯させると、電池寿命は短くなります
動作温度	- 20℃～ 50℃
寸法	約 155 × 40 × 18mm (突起部を除く)
質量	約 105g (電池を除く)
コード長	約 850mm
使用できるアクセサリ	・延長コード MC-21 (MC-21 を 2 本以上介して接続した場合の動作は保証しておりません) ・GPS 変換コード MC-35 (MC-35 の 10 ピンターミナルを介して接続)

※ リモートターミナル付きのカメラ (リモートターミナル付きのモータードライブを装着した場合を含む) には、変換コード MC-26 を介して接続できます。ただし、モータードライブ MD-12 との組み合わせには対応しておりません。